

令和3年度若年性認知症研修会

～若年性認知症の実態を理解し、
現場で何ができるか考えてみましょう～

島根県における若年性認知症施策 取組状況

島根県健康福祉部高齢者福祉課
地域包括ケア推進室

島根県の若年性認知症施策について

第8期(令和3(2021)～5(2023)年度)

島根県老人福祉計画・介護保険事業支援計画

第10章 認知症施策の推進

目標: 認知症の人が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる

指標: ①認知症サポーターを名簿登録している市町村数
②本人ミーティングが実施されている市町村数
③認知症カフェの設置数

- 1 認知症の人や家族の視点を重視した総合的な推進体制
- 2 認知症についての普及啓発
- 3 認知症の方を支える地域づくり
- 4 認知症についての相談対応
- 5 医療・介護の連携体制の整備
- 6 認知症介護サービスの向上
- 7 若年性認知症への対応



1. 相談支援体制の強化
2. ネットワーク構築
3. 普及啓発
4. 本人交流会・集いの場づくり
5. 若年性認知症実態調査

1. 相談支援体制の強化

(1)若年性認知症支援コーディネーター

①体制

- 平成30年4月から「しまね若年性認知症相談支援センター」を開設。
- 委託先：認知症の人と家族の会島根県支部
- コーディネーターを3名（介護福祉士・ケアマネ・看護師）、県の東西部に配置

②役割

- 本人・家族、支援関係機関、企業等からの相談対応
- 必要な支援制度やサービス等の紹介
- 関係機関等との情報共有、支援内容の連絡調整
- 本人が気軽に利用できる集いの場づくり
- 活動実績（相談件数等）

R2：223件（電話157 訪問66）



1. 相談支援体制の強化

(1)若年性認知症支援コーディネーター

③周知と連携促進

- 一般向け：街頭啓発、県HP・広報誌に掲載
関係機関：市町村担当者会議、認知症疾患医療センター連絡会の活用

④課題

- 本人・家族、医療機関等の認知度は十分でなく、実際に活用される方はまだまだ少ない。また就労時からの相談が少ない。
⇒本人・家族、関係機関、企業等への役割周知

【今年度の取組】

- 商工団体研修会(県商工会連合会(青年部)主催。令和4年2月5日)
若年性認知症における基礎知識等、職場での適切な対応など(講師:支援コーディネーター)
- 企業への周知(相談支援センターリーフレット)
県商工会連合会・商工会への配付、障がい者雇用促進フォーラム(10月)での配付
- コーディネーター支援事例の作成、周知
医療福祉サービス利用、就労経済面の支援、交流機会の提供といった支援事例 →
(県ホームページに掲載)
- その他周知啓発
産業保健総合支援センターや県健康推進課のメルマガを活用して、企業等へ発信



1. 相談支援体制の強化

(2)相談・サービスガイドブック

①特徴

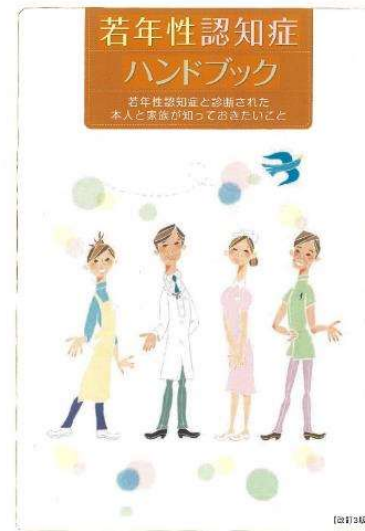
- 各種相談窓口や制度・施策の案内、紹介
- 支援コーディネーターや市町村、島根県若年性認知症自立支援ネットワーク会議（後述）と協議、連携し作成
- 大府センター作成のハンドブックと役割分担

②活用・周知

- 市町村の窓口、県内の医療機関等への配布
- 県HPへ掲載。デジタルブックも作成

【今年度の取組】

- **ガイドブックの案内と活用の周知**
会議や研修会等を利用した案内
- **改訂版に向けて内容の見直し**
定時的な対応窓口の確認。追加、修正項目の検討



【大府センター】
若年性認知症とは？



【島根県】県内の相談先、窓口等の紹介



2. ネットワーク構築

(1) 若年性認知症自立支援ネットワーク会議

① 体制

● 平成30年度から年2回開催（県主催）

- 【構成員】・認知症サポート医 ・高次脳機能障がい地域支援拠点
- ・認知症疾患医療センター（基幹型、地域型） ・精神保健福祉士会
 - ・地域両立支援推進チーム（労働局） ・両立支援コーディネーター
 - ・若年性認知症支援コーディネーター ・地域包括支援センター
 - ・市町村 ・島根県（障がい者福祉、高齢者福祉担当課）
 - ・経営者団体



② 内容

- 県からの施策説明、報告
- 支援コーディネーターから報告
（相談支援、研修・講演会、集いの場づくり等の実績）
- 相談サービス・ガイドブックの検討
- ケース検討

これがメイン

【今年度の取組】

➤ 2回開催

第1回：令和3年11月15日

第2回：令和4年3月（中止）

3. 普及啓発

(1) 講演会、研修会

世界アルツハイマーデー講演会

- 毎年9月に開催
- 当事者やパートナーを招き情報発信
- 講演会の後に本人交流会を開催

【今年度の取組】

- コロナ禍のため中止(街頭啓発も。R2・R3年度ともに)

(2) 広報事業

図書館タイアップ事業


- 9月に開催
- 認知症に関する書籍やDVD、チラシなどを展示

【今年度の取組】

- 展示期間: 令和3年9月
松江市立図書館、出雲市立図書館

2019年度
世界アルツハイマーデー 日
記念講演会
忘れても一人ひとりが主人公
～認知症と共に笑顔で生きる～

日 時: 2019年9月22日(日)
15時～16時30分 受付14時30分
場 所: ビッグハート出雲 白のホール
(出雲市駅南町1丁目5番地)
定 員: 340人
参加費: 無料(申し込み不要)



丹野智文さん

認知症に関心のある方。
認知症のご本人。介護の仕事をしている方。
その他、たくさんの方のご来場お待ちしております。

1974年、宮城県生まれ、県内のトヨタ系列の自動車販売会社に就職。トップセールスマンとして活躍していた2013年、39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断を受ける。14年には、全国の認知症の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」(現一般社団法人「日本認知症本人ワーキンググループ」)を設立した。15年から、認知症の人が、不安を持つ当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月、開いている。
たくさんの方に、若年性認知症を理解して欲しいと各地に出向いています。

同時開催
認知症の世界(VR体験)
アートギャラリーにて
時間: ①11時～ ②13時30分～
各30名(当日①10時 ②12時30分から
整理券発行します。
認知症ケア専門士獲得単位: 1単位

主催: 公益社団法人 認知症の人と家族の会 島根県支部
共催: 島根県・出雲市
後援: 厚生労働省・公益社団法人認知症の人と家族の会本部
一般社団法人認知症ケア学会
問い合わせ先: 出雲市今市町1213番地(0853-25-0717) 家族の会



3. 普及啓発

(3)動画・ケーブルテレビ、マンガ

①動画・ケーブルテレビ

- ケーブルテレビ協議会に委託し作成
- 番組をケーブルテレビで放映（令和元年度末）
- YouTube(県公式チャンネル)にもアップ

QRコードからアクセス→



②マンガ

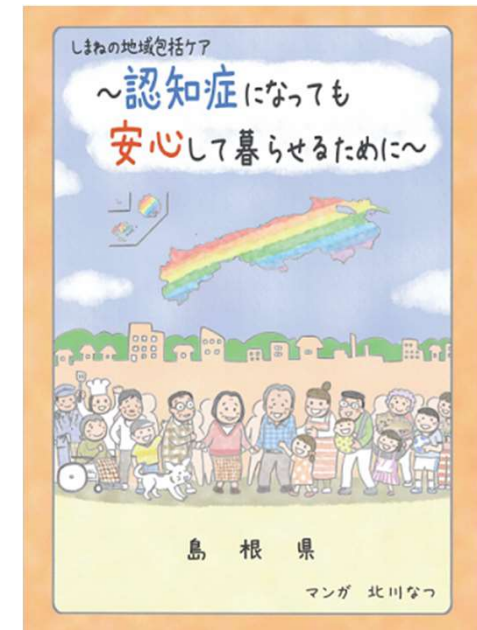
- 介護施設での勤務経験がある作家に委託
- 24ページ、2,000部作成
- 県HPへ掲載。デジタルブックも作成



QRコードからデジタルブックをご覧になれます。

しまねの地域包括ケア

検索



【今年度の取組】

- マンガを県内各地の図書館などで配付

4. 本人交流会・集いの場づくり

(1) 若年性認知症支援コーディネーターによる取組み

① 交流会の開催

- 若年性認知症の人や家族が交流できる場づくり

【今年度の取組】

- 適宜開催



② 若年性認知症の人と家族の集い「まいるど」 (H30～)

- 「穏やかにゆっくりと前に向かって進んで行こう」という趣旨から命名。
- 支援コーディネーターと認知症の人と家族の会県支部各地区会が連携し開催

- まいるど東部
- まいるど西部

【今年度の取組】

- コロナ禍において工夫しながら開催

「気兼ねなく集い、情報交換や相談ができる場」
「楽しみ、リラックスできる場」へ



4. 本人交流会・集いの場づくり

(2) 県内での取組み

① 市町村による取組み

- 講演会、集い、調査等を実施

② 山陰ど真ん中プロジェクト(R1~)

- 鳥取・島根にまたがる中海圏域を主な対象に本人交流会を開催(認知症の人と家族の会鳥取県支部、安来市地域包括支援センター)
- 毎月、米子市(鳥取県)で開催

県境を越えて開催

R1年度は米子市と安来市で持ち回り開催していたが、コロナ禍のため、安来市での開催は見合わせている



そば打ち



ヨガ体験

5. 島根県若年性認知症実態調査

平成21年度国の全国疫学調査に基づく
有病率(推計値)

有病率 47.6人/10万人



全国: 37,800人
島根県: 約170人



平成28年度若年性認知症実態調査
(島根県)

【調査対象】

県内全ての病院(51カ所)
精神科・神経内科、脳神経外科を標榜
する診療所(87カ所)

【調査内容(抜粋)】

H27年4月1日～H28年3月31日に
通院・入院した65歳未満の認知症患者

【回収率】82/138(59%)

【受診有り】31/82(38%)

【受診者数】109人

令和2年度国の全国疫学調査に基づく
有病率(推計値)

有病率 50.9人/人口10万人



全国: 35,700人
島根県: 約197人



令和3年度 実施
若年性認知症実態調査(島根県)